

R5 開始

11

さかたし

酒田市（山形県）

～主な品目～
水稲

実施体制

酒田市、山形県、JA庄内みどり、JAそでうら、JA全農山形、生産組合協議会、畜産関連民間業者、ほか生産者等

面積情報

有機農業取組面積：43ha 耕地面積に占める割合：0.4%

（令和3年度時点）



1 成果目標

有機農業の取組面積の拡大（主食用米） R4年度 40ha → R10年度 45ha

有機農業に取り組む農業者数の増加 R5年度 13人 → R10年度 14人

2 有機農業を拡大していく上での課題

- ・コストを下げつつも収量を確保して、化学肥料・化学合成農薬の使用量を低減させること
- ・労働投入量の増加に対して、担い手不足と高齢化の進行により、労働力が不足していること

拡大をはばむ雑草の紹介

ヒエ、コナギ、オモダカ、クログワイ
（6月～8月）

【対策】

成苗移植、米ぬか散布による抑制
水田除草機による除草

3 課題に対する取組のポイント・成果

- ・有機栽培を始め、優良・高品質な米生産のため大前提となる土づくりに向けた意識強化のため、コストを下げつつも収量を確保する土づくりに係る研修を開催
- ・本市の取組に共感する新規就農者の育成・確保のため、首都圏で開催された新規就農イベントに出展

【取組による定量的な成果】

長期的な視点に立って取組を始めたばかりであり、現段階では成果を得るまで至っていない。

ポイントとなる導入技術

本市では健苗育成・食味向上を目的として、ケイ酸質肥料や堆肥の施用による土づくりを、これまで本事業とは別に支援してきた。

本研修により、そうした土づくりの有用性の周知と実施する生産者の育成を図っている。



▲土づくり研修開催状況

4 主な取組内容

①生産

- ・コストを下げつつも収量を確保する土づくりに係る研修開催
- ・耕種農家が活用できる市内の堆肥賦存量に関する調査実施
- ・本市の取組に共感する新規就農者の育成・確保のため、首都圏で開催された新規就農イベントに出展
- ・有機農業の生産現場や堆肥ペレットの先進地視察の実施
- ・収量を確保しつつ、化学肥料・化学合成農薬低減に資する技術の検討、試行、普及（今後実施予定）



▲生産者による先進地視察

②加工・流通・消費

- ・都内学校の保護者に対して、有機農産物や本市の環境に配慮した農産物への認識や需要についての消費者アンケート調査を実施
- ・市内の飲食施設において、有機栽培米を提供し、食味に関する感想や有機農産物への認識や需要について、消費者アンケート調査を実施



▲ペレット堆肥の先進地視察